

# Bird Research Annual Report 2020

---

バードリサーチ活動報告

---



NPO法人 バードリサーチ  
Japan Bird Research Association



エナガ (Photo: 細川由紀子)

## ごあいさつ

鳥類の繁殖状況を全国規模で把握するための「全国鳥類繁殖分布調査」は2020年で最終年となりました。皆様のご協力のおかげで全国2,320コースの調査が終了し、集まったデータによって、日本で繁殖している鳥類の現状や、過去のデータとの比較によって生息状況の変化などが明らかになってきました。

国際社会共通の目標である、持続可能な開発目標 (SDGs) の中には、陸地や海洋の生物多様性の損失を防ぐ事が盛り込まれています。そのためには、希少種の保護や生態系の保全などを今まで以上に進めていく必要があります。全国鳥類繁殖分布調査の成果は、保護区の選定等に使用される、重要な基礎データとなります。バードリサーチがこれまで鳥の生態や生息状況に興味を持つ方々と共に、全国各地で実施してきた様々な調査も同様の貢献を果たしています。今後も調査を続け、結果を社会に発信し、野生生物と人間が共存・共生する社会を目指していきます。

2020年に実施した調査には、延べ3,595人の方々にご協力頂きました。ご協力頂き、誠にありがとうございました。2021年もぜひ、バードリサーチの調査にご協力ください。

## STAFF

前列左から高木憲太郎、山崎優佑、神山和夫、植田睦之  
後列左から佐藤望、植村慎吾、守屋年史



黒沢令子



平野敏明



加藤ななえ



三上かつら



セッカ (Photo: 大門 聖)



# 鳥類繁殖分布調査

しばしば起きる大規模な災害、中山間地の過疎化や農林業の変化、そして気候変動。日本の自然は大きく変化しています。スズメの減少が話題になったように、自然の変化に伴い思いもかけない鳥が減ったり増えたりしています。

そんな鳥たちの現状を明らかにし、対策を考えるために、2016年度から2020年度までの5年計画で鳥の国勢調査ともいえる「全国鳥類繁殖分布調査」を行なっています。

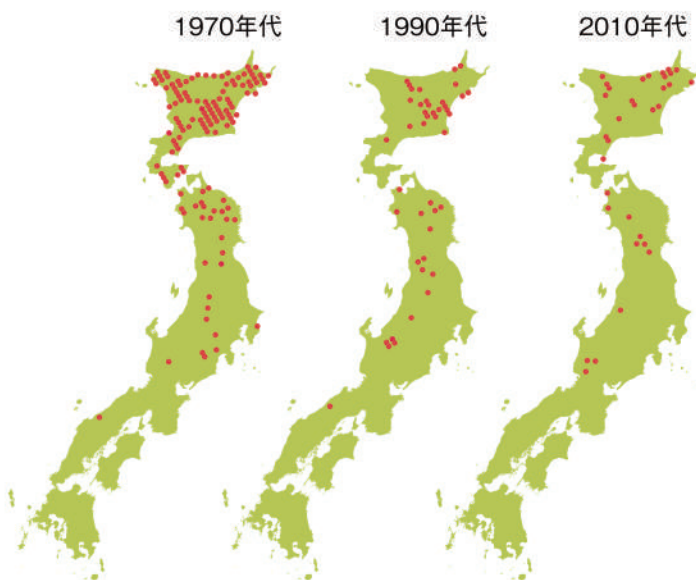
## 99%の調査地で調査が完了

今年が調査の最終年度ですが、コロナ禍もあって、調査できないコースも出てしまいました。それでも、皆様のご協力のおかげで、2,320コースの調査を終えることができました。また、夜行性の鳥など現地調査だけでは記録できない鳥の分布情報をあつめるアンケート調査の情報も集まってきており、これまでに2,027人の参加で22万件の情報が集まりました。

## 飛翔採食性の鳥が減少

昨年より、データ数が増えたことにより、新たにアマツバメ類、ツバメ類などの飛翔採食性の鳥たちが減少していることがわかってきました。アマツバメ類、ツバメ類のうち、ツバメとリュウキュウツバメの2種を除くすべての種の分布が縮小していることがわかったのです。特にハリオアマツバメ、ショウドウツバメ、ヒメアマツバメで顕著でした。ツバメは分布こそ縮小していませんでしたが、個体数で見ると減少傾向にありました。

食物となる飛翔性昆虫が減少しているのでしょうか？ この調査で調べているのは分布だけなので、原因まではわかりませんが、関連情報の収集を進めることで、原因が明らかにできたらと考えています。



▲ハリオアマツバメの分布の変化。確認メッシュ数は1970年代の129メッシュから、1990年代の44メッシュ、そして34メッシュと減少していた。現地調査で確認できたコース数も1990年代から半減した。

▼ハリオアマツバメ (Photo: 時田賢一)

## 分布図完成のためにご協力ください

たくさんの参加者の力で、日本の鳥の現状がわかってきました。現在、各種鳥類の分布図を完成させようとしているところです。現地調査で、その地域にいる鳥の全てを記録できるわけではないので、それを補うためにアンケート情報の収集を続けています。分布図をより良いものにするために、アンケート調査へのご協力をお願いします。



## 全国鳥類繁殖分布調査

主催団体: バードリサーチ、日本野鳥の会、日本自然保護協会、日本鳥類標識協会、山階鳥類研究所、環境省生物多様性センター

<http://www.bird-atlas.jp>

調査事務局: バードリサーチ

全国繁殖分布調査ニュースレター

<http://www.bird-atlas.jp/pub.html>

BRNews 2020(6):3, BRNews 2009(9):2



# 活動報告 その1

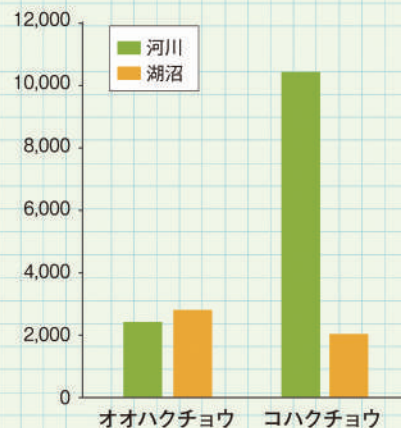


コハクチョウ (Photo: 北尾祐介)

## 宮

### 城県内のハクチョウ類の越冬分布状況を調査しました

日本はオオハクチョウとコハクチョウの主要な越冬地です。中でも宮城県は国内最大規模の越冬地と考えられていますが、両種がどのくらい越冬しているのか十分な調査が行われていませんでした。そこで、日本野鳥の会宮城県支部、東北大学野鳥の会、エイジス(株)、(公財)宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団、そしてバードリサーチ会員の皆さんと共に、1月中旬に計60地点を調査した結果、オオハクチョウ5,415羽、コハクチョウ13,098羽が記録されました。また、今回の調査で、オオハクチョウは河川も湖沼も同じくらいの個体数がねぐらとして利用していたのに対して、コハクチョウの多くは河川をねぐらにしていることが分かりました(図)。東アジア個体群の推定個体数はオオハクチョウが42,000~47,000羽、コハクチョウが99,000~141,000羽なので、どちらも東アジア個体群の10%程度が越冬している事になり、両種にとって重要な越冬地であることが改めて明らかになりました。 BRNews 2020(7)



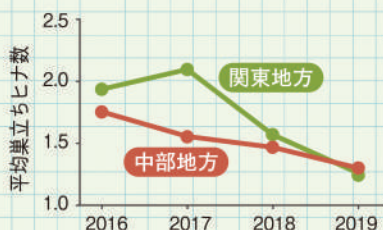
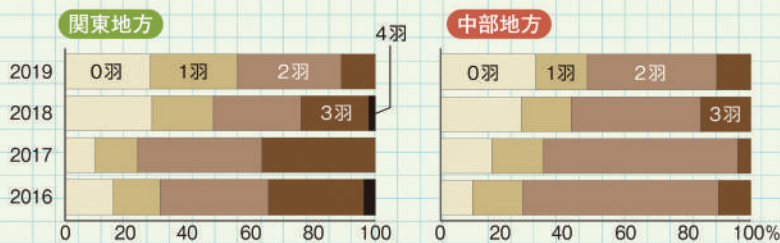
▲宮城県ねぐら環境別ハクチョウ個体数

## オ

### オタカの繁殖成績が低下？

2017年にオオタカが種の保存法に基づく「国内希少野生動植物種」から解除されました。バードリサーチでは解除の影響の有無を明らかにする環境省の調査を受託しています。環境省の調査はいつまでも続くものではありませんので、それと並行して、NGOの手で継続的なオオタカのモニタリングができる体制もつくろうと、日本オオタカネットワークなどと一緒にアンケートによる全国のオオタカの繁殖成績の情報収集も行なっています。

この調査から、少なくとも関東地方と中部地方では、繁殖成績がここ数年下がっていることが見えてきました。まだ調査期間が短いので、長期的に下がっているのか、それとも変動の範囲内なのかはわかりません。



▲関東地方と中部地方のオオタカの巣立ちヒナ数の年変化

今後もモニタリングを続けることで、それを明らかにしていきたいと思います。また、それ以外の地域はまだ情報量が少なく、傾向を見ることができていないので、さらなる情報収集を進めていきたいと思っています。オオタカの情報をお持ちの方は、ぜひモニタリングにご参加ください。

BRNews 2020(3)



オオタカ (Photo: 園村茂夫)

遠

## 浅の海はカモの宝庫

### 有明海・八代海のカモ類合同調査

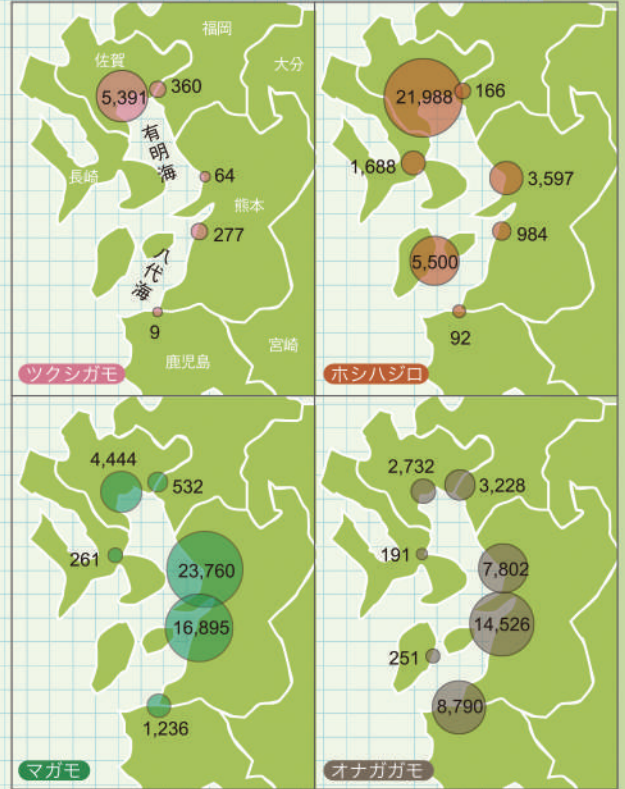


ホシハジロ (Photo: 藤波不二雄)

広大な干潟が広がる有明海・八代海には、驚くほど多くのカモ類が越冬しています。この地域の野鳥保護団体の皆さんと共同で実施した調査で、海域の南北でカモの種構成が異なることが分かりました。北部の長崎県諫早市から佐賀県にかけては、ツクシガモ、スズガモ、ホシハジロといった浅海域で採食する種が多く記録されました。一方、南部の熊本県・鹿児島県ではマガモ、カルガモ、オナガガモ、ヒドリガモといったマガモ属の種が多く記録されました。北部の広い干潟がツクシガモやハジロ類の餌場になっている一方で、北部は冬期に水田の裏作が盛んなため、マガモ属の餌になる落ち粉が少ないようです。そして南部では稲刈り後の水田に落ち粉が豊富であることがマガモ属が多い理由ではないかと考えられます。さらに今回の調査で、本州の越冬地で急激に数が減っているホシハジロが数万羽の規模で越冬していることが分かりました。これからも干潟と陸地を行き来しながら暮らしているカモ類をモニタリングしていきます。

BR News 2020(6)

\*ハクチョウ類(左ページ)・カモ類の調査は環境省事業モニタリングサイト1000(ガンカモ類調査)の一環で実施しました。  
参加団体：長崎県野鳥の会、日本野鳥の会佐賀県支部・筑後支部・熊本県支部、出水のツルと野生生物研究会、クレインパークいづみ



▲有明海・八代海のカモ類の分布

フ

## ン受けと人工巢でツバメに優しい街作り

昔から人家に巣をつくり子育てをしてきたツバメ。ところが最近は糞が落ちることが嫌がられて、巣を作らせてもらえない場所が増えています。そこで、ツバメの子育てを受け入れてもらえるよう、かわいいツバメのイラストが付いたフン受けを駅やサービスエリアなどに配布しています。また香川県の3カ所のサービスエリアでは、ツバメの巣がトイレのあちこちに作られてしまうので、コルク製の人工巢を設置してツバメの営巣を特定の場所に誘導するようにしました。この人工巢は壁の塗り替えなどで古巣を壊してしまうときにも利用できます。ツバメのフン受けは(株)シー・アイ・シーと皆様からの寄付金により配布しています。イラストと人工巢は会員の小川美奈子さんの制作です。



▲京王電鉄の駅に設置された糞受け



▲香川県豊浜サービスエリアの人工巢で育つヒナ

# 活動報告 その2



カワウ (Photo: 渡辺美郎)

## 現

場に即したカワウの管理計画を作ってもらうために

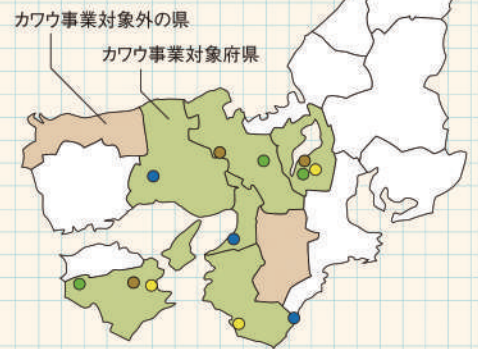
カワウは川で魚を食べるため内水面漁業との間に軋轢が起きたり、住宅地の近くにできたコロニーが問題になったりします。シカの管理は狩猟の規制と緩和など個体数のコントロールが重要視されていますが、カワウの場合はいろんな要因がからみ、個体数と被害量は直線的な関係になりません。殺した分だけ被害がなくなるという構図にはなっていないため、カワウの管理ではいろいろな対策を組み合わせる計画的に被害を減らしていく必要があります。

カワウの管理計画は都道府県ごとに作成することになっていますが、具体的な対策を考えるには範囲が広すぎるようです。良い管理計画を作るには、ひとつひとつの現場を見て、その場所の条件や関わる人達にあった対策のセットを考え、管理方針を立てる必要があります。

関西の8府県4市の連合体である関西広域連合から受託している業務では、各地にカワウ管理の専門家を派遣し、地域の関係者と共に管理方針を考えるワークショップを2015年度から行っています。今年は、2018年度までの4年間に12地域で実施してきた成果を取りまとめたレポートを作成しました。

BRNews 2020(9)

- 平成27年度
- 平成28年度
- 平成29年度
- 平成30年度



▲4年の間に専門家を派遣した地域。それぞれの地域で管理体制と管理方針が作られるよう、受託業務を通して働きかけを行っている。

## YouTube を使ったライブ配信

5月から、金曜夜20時に「フライデーナイトWebセミナー」と題してYouTube上でライブ配信をしています。これまでに、職業研究者、在野の研究者、大学院生、高校生、中学生まで、鳥の研究を楽しむ幅広い発表者の方にわかりやすく楽しい話をして頂きました。また、バードリサーチの職員によるプロジェクトの報告も行いました。ネット環境があればどこでも誰でも参加でき、研究者と気軽に接することのできる機会として多くの方にご覧いただいています。チャット機能を使った質問やコメントも毎回盛り上がっています！鳥の調査研究に興味のある視聴者が、調査研究活動をご自身で主体的に楽しめる身近なものと感じていただける場になりたいと思います。配信済みの動画をYouTubeチャンネル内に残してあります。チャンネル内には他にも鳴き声学習用の動画やTORI-Quizと連動させた動画など、調査や識別に役立つ学習コンテンツがあり、今後さらに充実させる予定です。



▲バードリサーチHPの「イベント」ページからYouTube上のバードリサーチチャンネルに移動できます。

# モ

## モニタリングサイト1000のとりまとめとシギ・チドリ類の懸念される状況

環境省事業のモニタリングサイト1000における森林草原、ガンカモ類、シギ・チドリ類の鳥類3分野にバードリサーチは関わっており、昨年度5年に一度のとりまとめ報告書が作成されました。バードリサーチは、事務局として携わり調査員や研究者と共同で調査データの収集や分析を行い、今後の調査についてまとめました。また、森林草原分野では成果の一部が書籍としても出版されています。



▲3分野のとりまとめ報告書

シギ・チドリ類調査の報告書では、日本で観察されるシギ・チドリ類の全体的な個体数が減少傾向していることをとりまとめました。種別に見ると2000年から2017年にかけて、シロチドリ、タシギ、ハマシギについては、春期と秋期の渡り期、越冬期の3シーズンで減少していました。また、1シーズンでも減少傾向が見られた種は25種に及び、そのうちシロチドリ、タシギ、オオソリハシギ、ダイシャクシギ、タカブシギ、キアシシギ、ソリハシギ、

キョウジョシギ、オジロトウネン、ハマシギの10種は半減以上の減少率を示しています。希少な種だけでなく一般的に観察される種についても減少傾向にある事から生息環境である湿地の状態が懸念されます。また、秋期に減少している種は20種と春期・冬期よりも多く、幼鳥の減少など繁殖成功率の低下なども考えられました。

キョウジョシギ (Photo: 藤井 薫)



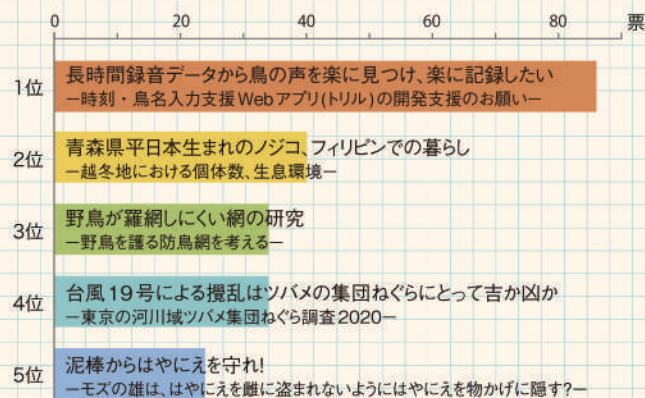
# バ

## バードリサーチ調査研究支援プロジェクト

みなさまから寄付を募って、それをもとに鳥類の調査や研究を行なう方に支援を行ないました。2019年度の支援額の総額は121万円。これらを得票数で割り振り10件の支援先に贈呈しました。得票数の最も多かった調査研究プランは大坂英樹さんによる「長時間録音データから鳥の声を楽に見つけ、楽に記録したいー時刻・鳥名入力支援Webアプリ(トリル)の開発支援のお願いー」でした。

技術の進歩によってICレコーダーなどで簡単にさえずりを録音できるようになり、鳴き声でのモニタリングが普及しましたが、膨大に集まる録音データの聞き取りは大変です。大坂さんが開発するWebアプリはスペクトログラムを見ながら鳥の声紋を見つけ、その時刻と種名を入力する作業の大幅な効率化を図ることができます。このアプリが完成し、会員の皆さんの録音による研究がたくさん進むことを期待しています。

また、2018年度の支援先の成果報告書がまとめ、支援者の方々にご報告すると共に、Webサイトに報告書を掲載をしました。



▲2019年度の支援先の得票数上位5件の得票結果

BRNews 2019(12), 2020(6)

Webデータベースを活用したバードウォッチング大会

# インターネット ・バードソン



◀2020年の  
バードソン  
記録地点

全国のバードウォッチャーが、2週間の期間中に見た野鳥をWebデータベース「フィールドノート」に登録して種数を競うインターネット・バードソンを繁殖期と越冬期に開催しました。2回のバードソンを合わせて530名の皆さんが参加され、6,438回の観察記録が集まりました。

バードソンの記録は野鳥の分析にも活用されています。繁殖期の記録は全国鳥類繁殖分布調査に活用され、越冬期の記録からは越冬分布図の作成を行いました。過去の越冬期の全国調査と比較すると、いくつかの種で分布の変化が見られました。オオバンは全国的に越冬数が増え、分布が拡大してきています。分布域が北上していることから温暖化の影響があるのかもしれない。

## ▼オオバンの越冬分布図

1980

環境庁1988  
第3回自然環境保全基礎調査  
越冬分布図

2016~2019

バードソン記録などによる  
越冬分布図



オオバン  
(Photo:土屋 尚)

インターネット・バードソンは2021年も1月と5月に開催いたします。  
ぜひご参加ください。

BR News2020(1), (6)

表紙写真：キジ (Photo: 渡辺美郎)

特定非営利活動法人 バードリサーチ

〒183-0034 府中市住吉町 1-29-9

Tel / Fax : 042-401-8661

E-mail : br@bird-research.jp

http://www.bird-research.jp

デザイン: いきものパレット

